

聖徳太子堂



建立 平成四年（1992年）

太子堂左右奉納されたの掛灯籠

わが国仏教興隆の祖として崇められる太子の「和を以て貴しとなす」の理念にもとづき、世界平和を願って建てられた。聖徳太子が法隆寺を建立したことで多くの優れた建築職人が生まれたため、現在でも建築業界では「和装建築の祖」と信仰されている。

毎年、4月には、聖徳太子に感謝の誠をささげる報恩大法会が奉修され、当山雅楽部による雅楽の演奏、舞楽の奉納、特別札の授与が行われる。

聖徳太子報恩大法会 4月20日頃

堂内の壁面六面には大山忠作画伯による絵が描かれている。

聖徳太子が開基した法隆寺の夢殿と同じ八角形の型をしています。

聖徳太子の立像（写真）・裏仏には聖観世音菩薩（しょうかんぜおんぼさつ）が安置されています。



聖徳太子報恩大法会 雨の為堂内で実施（2013年）

「お気持ちだけでいいですよ」とお寺は言いますが、お気持ちの相場はだいたい下記の様です。
 周りの掛灯籠（左右に各 210 個、合計 420 個）は 300 万円、裏手の銅の plate は 100 万円



古式豊かな踊り（舞楽）



大山忠作画伯の絵



「迦陵頻」（かりょうびん）（左方の舞）



成田山職員による雅楽演奏

聖徳太子報恩大法会（2014年 屋外で実施）